

単元名 **ポートボール（ゴール型）**

本単元の主目標

協力プレー，友達への声かけでチームワークの感覚を養う

本単元の副目標

怪我なく，スポーツを楽しむ

- 1 実施月 令和3年9月
- 2 単元名 ポートボール（ゴール型）
- 3 本単元を指導するにあたって

(1) 単元観

本単元は，小学校学習指導要領【体育編】の次の事項の内容を受けて設定されている。

オ ボール運動系

ボール運動系は，競い合う楽しさに触れたり，友達と力を合わせて競争する楽しさを味わったり，喜びを感じたりすることができる運動である。これらの運動（遊び）は，主として集団対集団で，得点を取るために友達と協力して攻めたり，得点されないように友達と協力して守ったり競い合う楽しさや喜びに触れることができる運動（遊び）である。また，基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け，ゲームを楽しむことができる運動（遊び）である。

ボール運動では，互いに協力しながら役割を分担して練習を行い，型に応じたボール操作とボールを持たないときの動きを身に付けてゲームをしたりルールや学習の場を工夫したりすることが学習の中心となる。また，ルールやマナーを守り，仲間とゲームの楽しさや喜びを共有することができるようにすることも大切である。

(2) 児童観

全体としてボールに携わる技能（捕球，投球）が低い傾向にあり，ポートボールに初めて取り組む児童も多い。また，学齢の違い，障害の差による運動能力にもバラつきがある。チームワークについては，消極的な児童と積極的な児童の間に温度差がありチームワークに欠けている。特に球技では得意な児童によるワンマンプレーも顕著になりやすい。

ネガティブ発言（友達への悲観的な言動）は以前に比べて減少しているものの，未だ支援中（特にゲーム時）には，突発的にネガティブ発言の出る場面もある。

(3) 指導観

本単元では特に，ア. チームワーク，イ. 怪我の予防 の2点をキーワードとして指導を行っていく。

ア. チームワークについては，以前から行っている「ネガティブ発言」に対する指導を継続する。また前回（令和3年7月）実施のティーボール時に指導が徹底できていなかった「ネガティブ発言をどのように言い換えればよいか」という点を本月では重点的に指導していくものとする。消極的な児童と積極的な児童の間に温度差がありチームワークに欠けているため，ミーティングの機会を設け，児童中心で話し合いを行わせる。その際には支援員も話し合いに加わり発言が少ない児童に対して発言がしやすい問いかけをしたり，反対に自己主張が多すぎる児童に対しては周りの意見を取り入れるよう注意をしたりする。ワンマンプレーが目立つ児童に対して，パスを回したりボールを持っていない時の動きを意識させたりすることでチームワークの大切さを感じさせる。また，練習してきた成果や継続してきたことを発揮させるポートボールカップを行い開催し児童が達成感を得ることで次のチャレンジに繋げる機会を作る。

イ. 怪我の予防については，「怪我のリスクのあるものはやらせない」ではなく，「どうしたら怪我なくできるか」ということを指導のポイントとする。過去，ボールを扱った支援を行った際には，球が顔に当たったことによる鼻出血が起きた事例もあることから，活動に支障をきたさない範囲で使用するボールの材質を検討・変更することや，球技で起きやすい怪我（突き指，捻挫など）に対する予防を徹底することなどが支援までの準備段階として挙げられる。児童への直接的な指導としては，用具の正しい使い方の指導，危険なプレーのデモンストレーションを行うことで，怪我なくスポーツを楽しむことができる支援を行っていく。

4 単元の目標

- 協力プレー，友達への声かけでチームワークの感覚を養う（主目標）
- 怪我なく，スポーツを楽しむ（副目標）

5 指導・支援の計画（全10時間）

時数	学習内容と活動	指導・支援
1 2 3	<p>○ミニゲームにつながる補助運動を行う。</p> <p>○柏の葉学園ルールでゲームを行う。(オリエンテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの仕方に慣れ、楽しくゲームを行う。 ・課題を把握する。 ・説明されたルールを理解する。 <p>○みんなが安全に楽しく活動するためには、どのようなことに気を付ければよいかを考え、約束を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい声かけをする。 ・ルールをしっかりと守り、チームで協力をする。 <p>○ネガティブ発言撲滅キャンペーンを継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミスをしてしまった友達に対し非難するのではなく「励ましの言葉」や「プラスの言葉」をかける。 ・友達のいいところを見つけ、「ポジティブな」言葉かけをする。 <p>○「言い換えチャレンジ」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブな発言を別の言葉に言い換えてみる。 	<p>○いろいろな遊びをしたり、チームで協力をしてゲームをしたりしながら、ポートボールに対し、児童のやる気や興味を引き出す。</p> <p>○全員が安全に楽しむため、またチームワークを作るためには、ルールを守ることや教え合いや励まし合いが大切であることを確認する。</p> <p>○危険行為やマナー、声かけについて、具体例を挙げて共通理解を図る。</p> <p>○ネガティブ発言に対する言い換えチャレンジを行う。</p> <p>(何してんだよ→ドンマイ！)</p> <p>(お前のせいだ→俺も悪かった)</p> <p>(前向きな言葉を教え子ども達の中で浸透させていく。)</p>
4 5 6 7 8	<p>○準備運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手首足首、アキレス腱など、よく使う部位をほぐす。 <p>○ウォーミングアップアップに関する補助運動を行う。(補足資料参照)</p> <p>○ケガのしやすい動きやプレーについて理解する。</p> <p>○危険なプレーのデモンストレーションを見て、理解する。</p> <p>-----</p> <p>○ボール操作(シュート・パス・ドリブル)のポイントを理解する(身に付ける)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が取りやすいボールを投げる。(胸の前) <p>○チームワークに関する補助運動を行う。(補足資料参照)</p>	<p>○手首・足首、アキレス腱などしっかり伸ばしたり、動かしたりさせる。</p> <p>○補助運動を楽しみながら、巧みな動きや運動を調節する能力(ボール遊びに必要な力)を高めさせる。</p> <p>○うまく動くことができない児童には個別に動きを見せ、まねができるようにする。</p> <p>○児童全員がルールを理解して取り組めるようにルールをしっかりと確認させる。理解に時間がかかる児童には、指導員が一緒に行い、活動に楽しく参加できるようにする。</p>

	<p>○キャッチのポイントを理解する(身に付ける)。 ・チームで連携してパスを回し得点出来るようになる。 ・ねらった場所にパスを出しシュートする。</p> <p>○投球動作に関する補助動作を行う。 (補足資料参照)</p> <hr/> <p>○ディフェンス・オフェンスの動きを理解する。 ・チャンスゲーム (柏の葉学園オリジナルゲーム)</p> <p>(チームで円になり真ん中に何名かでディフェンスしボールをガードするゲーム。)</p> <p>○ポートボールの正式なルールを知る (触れる)。 →ポートボールやゴールなどの動画をみる。</p> <p>○ポートボールゲームを行う。 ・チームで連携してパスを回し得点ができるようになる。 ・チームで協力して相手の攻撃を防ぐ。</p>	<p>○児童に「ポイント」をしっかりと確認・意識させ基本的な動きを身に付けさせる。</p> <p>○児童の様子を観察し、必要に応じて助言する。</p> <p>○積極的にいい声かけやいい行動をしている児童・教え合いや励まし合い、児童同士が声をかけ合っているチームを称賛し、全体に広める。</p> <p>○運動に対する良い動きは称賛し、全体で取り上げたりし、他の児童がまねできるようにする。</p> <p>○運動に苦手意識がある児童も楽しめるよう、必要に応じてルールを追加したり、改正したりする。</p> <p>○水分補給の時間をとり、熱中症等に十分注意する。</p> <p>○休憩時間にチームで話し合い作戦を立てる時間を設ける。</p> <p>○チームプレーができた時にグリーンカードを明確に示す。</p>
<p>9 10</p>	<p>○柏の葉学園ポートボールカップを開催し、まとめを行う。</p> <p>○全員が楽しめるルールは何か考える。</p> <p>○チームで作戦・戦術を考え、ゲームをする。 ・全員で協力し、得点を取ったり、相手の得点を防いだりすることができる。</p> <p>⇒今後、学校や地域などでバスケット型の授業や遊びを行う時抵抗なく参加できる。勝ち負けや技術でない、仲間との協力や達成感などを「楽しめる」姿勢を身に付ける。</p>	<p>○必要に応じて、全員が楽しめるルールを追加したり、改正したりできるように、助言する。</p> <p>○「いい声かけ」を意識させ、常にポジティブな雰囲気で行えるようサポートする。</p> <p>○支援員も児童と一緒に全力で楽しむ。</p>

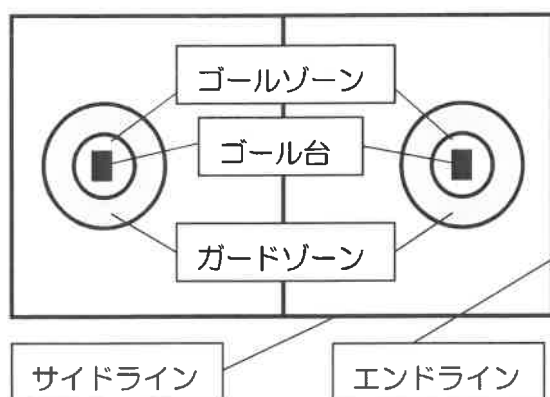
6 想定される問題とその対処

想定される問題・課題 (◆)	対処・支援方法 (◇)
<p>ネガティブ関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆友達（仲間）がミスした時のネガティブ発言。 ◆相手チームの反則や自分たちのチームの納得いかないプレーを行った時の相手に対しての批判や挑発発言。 <p>◆毎回チームを変更すると短い支援の中で時間がかかってしまい児童達の集中力やチーム感覚が養われにくくなる。</p> <p>◆チームになりたかった子となれなかった児童，チームに苦手な子がいる児童のモチベーション低下。</p> <p>◆審判への自分本位の抗議。</p> <p>◆チームが負けている時のモチベーションの低下。</p> <p>児童の特性関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「やったことがない」「苦手」「楽しくなさそう」一歩踏み出せず，参加できない。 ◆ルールを理解に時間がかかり，行動に移せない，反応が遅くなる。 <p>◆能力のレベルの差がでてくる。</p> <p>◆ゲームや練習への参加が難しい児童がでてくる。</p> <p>安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆突き指をしてしまう。 ◆捻挫をしてしまう。 <p>◆ゲームの際，穴・草・石等につまずく。</p>	<p>◇ネガティブ発言撲滅キャンペーンの継続的な実施に加え，新しい要素として「言い換えチャレンジ」の実施を行う。</p> <p>「言い換えチャレンジ」：ネガティブ発言があった場合に，ネガティブ発言をした児童が“適切な表現に言い換える”ことができれば減点などのペナルティを無効とする。</p> <p>◇初めにチーム決めを行い，1カ月間はチームを固定化することでチーム意識を養わせる。</p> <p>◇前向きな声掛けや考え方を指導する。</p> <p>☆審判は，グリーンカード・イエローカード・レッドカードなどを準備。フェアプレーの精神を身に付けさせる。</p> <p>「グリーンカード」：ナイスプレーの選手に挙げるカード。</p> <p>◇勝ち負けより，「楽しい」や「いいプレー」に意識を向けさせる。</p> <p>◇児童の特性に合わせたルール変更や，声かけなどをして「やってみる」につなげる。</p> <p>◇指導員が一緒に行ったり補助説明を行ったりすることで，活動に楽しく参加できるようにする。</p> <p>◇個人技能の練習の際は能力に合わせてグループ分けを行い，練習を行わせる。全体で行う際は，随時ルールを追加・改正するなどの対応をする。</p> <p>⇒できるところは極力本人に行わせ，難しい部分についてチームで補い合わせるなどチーム意識を養わせる。</p> <p>◇声掛けや指導員が一緒になりプレーする。</p> <p>◇準備運動として，ラジオ体操以外に手関節，指関節のストレッチを併せて行う。</p> <p>◇手首，足首など捻挫を起こしやすい部位のストレッチを支援前に行う。</p> <p>⇒実際に怪我が起きた際の対処（RICE 処置）を全支援員に共有する。またその処置に必要な救急バッグ等も準備しておく。</p> <p>◇支援前にフィールドのチェックを支援員が行い，支援開始時にも児童とともにチェックを行う。</p>

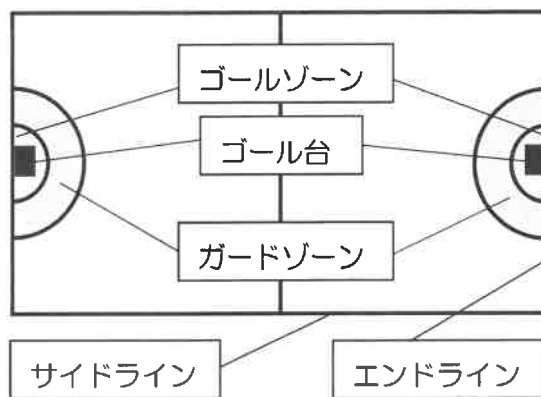
<p>◆ボールが道路や敷地外に出る。</p> <p>◆衝突やラフプレーによる怪我が起きる。</p>	<p>◇敷地外に出たボールは児童だけで拾いに行かないことを約束として決める。また、危険が予測される場所がある場合には、その箇所に支援が立つなどの対策をとる。</p> <p>◇危険なプレーをデモンストレーションで児童に見せることで、どのようなプレーが危険で怪我に繋がるのかを理解させる。</p>
---	--

ポートボール

2チームで争い、パスやドリブルを使って味方のゴールマンにボールを投げ渡すと得点になり、一定時間内に得点の多いチームが勝ちとなる。



【柏の葉学園コート】



【正式コート】

柏の葉学園 ポートボールルール

○1チーム6～7人（ゴールマン1人、ガードマン1人、プレイヤー5人）

- ・ゴールマン…シュート台の上に立ち、シュートをキャッチする役割。
- ・ガードマン…ガードゾーンで相手シュートの邪魔をする役割。

○ゴールマンがボールを完全にキャッチすると得点となる。

- ・ゴールマンはジャンプしてキャッチしてはいけない。（片足が台についていればOK）
 - ・シュートした際、ガードマンがゴールマンの体に触れても得点となる。
- シュートが決まったら、相手チームがエンドラインからスローイン。
- ・ゴールマンをゴールが決まることに変更する。

○プレイヤーはボールを持って3歩以上歩いてはいけない。（トラベリング）

→相手ボールとなり、一番近いサイドラインからスローイン。

○ドリブルは片手でしなければいけない。

ドリブルをした後両手で持ってから、続けてドリブルをしてはいけない（ダブルドリブル）

→相手ボールとなり、一番近いサイドラインからスローイン。

- ・ドリブルでのワンマンプレーが目立つ場合にはドリブルをなしにする場合もある。

○正々堂々とプレーをする。

- ・相手をおさえ行動の自由を妨げない（ホールディング）
- ・相手を押さない（プッシング）
- ・相手をたたいたり（ハッキング）、つまずかせたりしない（トリッピング）

上記のことをすると、ファウル。相手ボールとなり、サイドラインからスローイン。

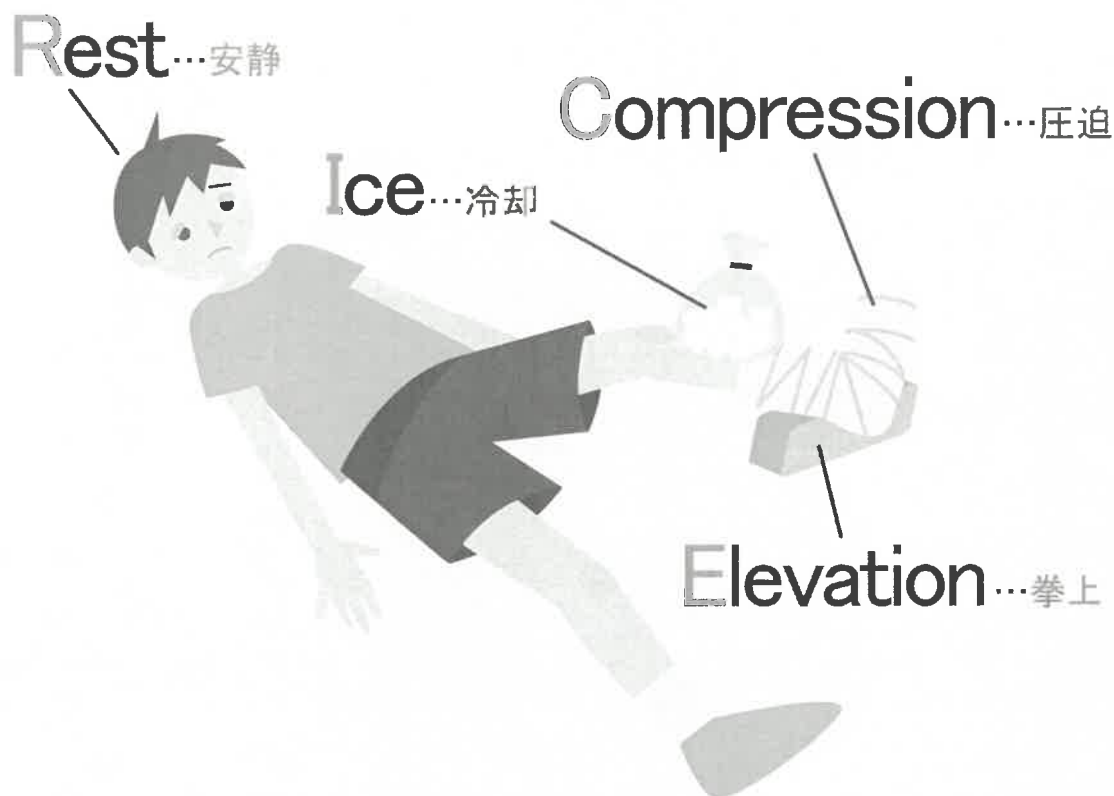
その他、正々堂々としていない言動に対してはイエローカード。

○ヘルドボールの（取り合いになった）場合はじゃんけん。

勝ったチームボール。一番近いサイドラインからスローイン。

ケガに対する応急処置方法

RICE処置

**安静 (REST)**

損傷部位の腫脹（はれ）や血管・神経の損傷を防ぐことが目的です。
副子やテーピングにて、損傷部位を固定します。

冷却 (ICE)

二次性の低酸素障害による細胞壊死と腫脹を抑えることが目的です。
ビニール袋やアイスバッグに氷を入れて、患部を冷却します。
15～20分冷却したら（患部の感覚が無くなった）はずし、また痛みが出てきたら冷やします。
これを1日から3日間繰り返します。

圧迫 (COMPRESSION)

患部の内出血や腫脹を防ぐことが目的です。スポンジやテーピングパッドを腫脹が予想される部位にあて、テーピングや弾性包帯で軽く圧迫気味に固定します。

挙上 (ELEVATION)

腫脹を防ぐことと腫脹の軽減を図ることが目的です。損傷部位を心臓より高く挙げるようにします。

救急バッグ
チェックリスト

- 氷（または瞬間冷却パック） 氷嚢（またはビニール袋）
 弾性包帯 テーピングパッド